

協働評価シート

事業名		障がいのある人もない人もお互いに支え合える防災のまちづくり	実施年度	平成28年度
部 局		福祉部	課 所	地域福祉課
団体等の名称		めいぷる ・ 新居浜市社会福祉協議会		
評価項目			評価者	評価
相互理解	それぞれの特性や立場を理解し合えたか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
対等	双方が対等の立場に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。(新たな自発的事业展開につながり自立化が進んだ場合はA評価)	団体等	B
			市	B
目的共有	双方が協働事業の目的を共有できたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたか		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか、具体的な改善点等があれば記載（自由記述）

<p>団体等</p>	<p>【避難所体験会の開催・福祉避難所運営マニュアル作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもが初めての場所で落ち着いて過ごすにはどうしたらいいかを考え、それを体験会の中で実際にやってみることができた ・初めての場所に入りづらい子どもに対しては、何か物を準備すればいいではなく、その子に合わせた対処が必要だということがわかった ・役所の方々も含め、普段障がい児と関わることの少ない人達に「こんな子どもが居ます」と知って貰えた <p>【防災講演会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に被災地で活動された講師の話を通して、被災地の現状が知れてよかった ・役所や地域の人達、障がいを持つ子ども達の親が大震災に備えてどう動けばいいか考える機会になった <p>【防災の手引き作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手に取った方からは見やすい、色々なことを網羅している等と評価して頂いた。障がい特性にあった防災の手引きが完成したと思う <p>【お願いリーフレットの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市政だよりに挟んで配布したが、リーフレットに気付かなかったとの声が多く聞かれ、私達の思いが市民の皆さんに伝わったかどうか不安である ・読んでくれた方からは、とてもわかりやすかったと評価して頂いた
<p>市</p>	<p>団体、社会福祉協議会、市だけでなく、地域の関係者などとの連携及びお願いリーフレットの市政だより折込や防災の手引きの関係箇所への配布・市HPへの掲載により、広く市民に災害時の障がい者支援について意識啓発を図ることができた。</p> <p>障がい者支援については、障がい特性ごとに必要な備えや配慮事項等が異なるため、今後も継続実施が必要である。</p>
<p>相互協議結果</p>	<p>今回は対象を知的・発達障がいの児童に限定した事業だったが、平成29年度は精神障がい者を対象にした事業を実施し、継続して市・障がい当事者・家族・地域などが協働で災害時の障がい者支援について意識啓発を図っていく。</p>